

めだかの学校だより

平成 13 年 6 月 1 日

第 32 号

学舎：いなさ自然休養村

<つみくさ>

事務局：引佐郡引佐町

東久留女木 472-111

TEL053-545-0381

校長訓話

第三十二回校長 句坂 玲子

薔薇のさぎさかれいこです。ぼらの・・なんて言うのはおこがましいのですがめだかのみなさんがみんな似合う似合うって言って下さるので、ついついその気になっていっています。

不思議です?！そうこうしているうちに薔薇を栽培してる私がいります。ほんとにフシギなことばかり・・・なんかこうするべくしてこうなってきたような?！今まで生きてきたなか、いろんなことありました、ホントに先輩方の前なんなんですが結構苦労してんです。そういうふうに見えないだけできて、いろんなことすべてが今、私の役に立っていると思えます。特に辛い苦しい嫌なことが意外にです。これがまたイヤイヤめだかの原稿がかかれてるお陰で振り返ることが出来るわけでやっぱヤー!なこととも良いことなんすね!!ありがたいこつてス。



しばらくめだかの学校も欠席していたので自己紹介したいと思いません。昔は銀行員、そして結婚、出産、まさかの離婚。子供を幼稚園に入れながらバラ園の事務のパート。その子も小学生に、私はバラ園にはまり正社員、栽培営業も行い、そこで社会復帰、とたんに目に付いたのがメダカの新聞。薔薇の名前200種類以上は言えるから先生やれて言われても1000回いってうちに十五分の授業は終わってしまうからと自分自身を励まし申し込みました!?!?そうしていきなり1回目から道に迷い

遅刻。つみくさに着いてからも車から降りるのに十分もビビッていたのを覚えていません。それから皆勤賞、めだかで薔薇似会うよ、そつかなーって励まされながら。それからバラ園を7年で辞める事になりガーベラ園に2年、アレンジやブーケの花仕事をしながら10年目ついにちっちゃなバラ園を立ち上げる事に・・おかしなものです20代までは花を飾った事すらく子供もさほど好きでもなくて、ところが自分の産んだ子は可愛い。娘が摘んでくれた花は愛しい。突然道端の雑草の花に気がつき跨いでいる自分にビックリしながら何かが変わっていききました。自分自身で生きていかななくてはいけなくなつた事も感謝すらしている今日この頃です。勇気を出してめだかに入つてほんとにヨカッタです。節目・窮地・転機にどれだけ沢山のお言葉をみなさんから頂いている事か・・このことは当日お話ししたいと思つています。

とにかく大変な事になりました。もう倒れる事すらできません。盆も正月も仕事です。そこで決めました!！格好悪くてもいい、弱音吐きながらでもガンバつていこう!って。まだまだ思い描いた夢の一端に触れてるだけなんだから!でもね。昔の連れたちはいまでもって、この私が土と汗にまみれ薔薇なんぞ作っていることまったく信じられず似合わんで!?!?

めだかの学校伝言板

——第 32 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成 13 年 6 月 1 日 (金) 6:20PM より——

校 長 / 句坂玲子

教 頭 / 川島安一

用務員 / 藤田潤吉

給食係 / 田邊哲・高森久枝・大谷香代子

佐藤律子・加茂光廣・伊藤英雄

中村明男・斉藤昭・尾上美智子

徳増兼弘・渡辺三ツ子 (チーフ)

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山 1737-286

いなさ自然休養村「つみくさ」内

TEL 053-543-0321 (開校日のみ)

受 付 / 高木初美・八木正子・酒井章博

本島慎一郎 (後見人)

<時間割>

1 時限目 理科 「かおりとにおいの違いは」
湯浅明美先生

2 時限目 } 「子どもの脳生理学」
社会 “君が必要なんだ”

3 時限目 } 中野昌俊先生

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■南国土佐に雪が降るー

行ってきました。南国土佐の国。さる1月26日(金)、27日(土)、高知市を会場に開催された「全国地域づくり団体研修交流会」(この名称何とかなりませんかね?)当初参加予定だった榊原幸雄生徒にかわつての代理参加!真夜中のハイウェイをひたすら走って8時間。やってきました土佐の国。トンネルを抜けると常春の太陽、青い空と海のはずが、どんよりとした灰色の空から雪がチラホラ。さて開会式、白浪五人男に扮した橋本大二郎県知事、松尾高知市長。etcのお歴々。ご挨拶がわりの御口上で場内を湧かす。特に橋本県知事は直前の成人式で「君たち、出て行きなさい!」の名言句がTVなどで何回も紹介され、一役有名に。当日もそのシーンを再現し、大喝采を浴びました。(ホント、おもしろい方ですわ!)笑いと拍手のうちに始まった研修会、舞台は各分科会へ。今では阿波おどりと並び称されるほど有名になった、よさこい踊りの裏話を聞く。市民総参加によるアップテンポのよさこい節、四国を代表する一大イベントに成長した陰で忘れさられようとしているエピソードの数々:正調よさこい節に秘められた修行僧の悲しい恋物語。人情味あふれる土佐の人たちが語りつく、ペーソスを交えた何気ない歌詞の中で、おもしろおかしく伝えられてきたよさこい節。土佐人の心を失いかけている現状に警鐘を鳴らしつづける文化財保護委員の方のお話は感動ものでした。また十数戸の集落の中で林

業に携わりながら、伝統芸能の継承に取り組む若者やなんと水窪町から引越して中山間地で頑張っている人など、いろいろな方との出会いがありました。雪の降る寒い土佐でふれた心温まる人間味。そして大勢の元氣者!心の中にたくさん思い出と元氣をつめこんで高知市をあとにしました。

(遠州横須賀倶楽部・鈴木武史生徒)

■ネパールにぼれ話

三ヶ日町祥月洞入口で二年前の冬手に入れたムクロジの木の実。それで作ったネックレスを付け歩き回った二週間のネパールの旅。街や村の至る所で草笛を吹きつたのだとどしい英語を交しながら気ままな一人旅だった。行く先々で「あなたはネパールの人ですか」と聞かれた。理由はすぐにわかった。ムクロジのネックレスである。大半がヒンドゥー教徒のネパールではネックレスはしない。仏教徒の子ベット人がするのだ。

実はムクロジはインド、ネパール原産の木で、その昔、僧侶が数珠を作るのにこの実を使った。首都カトマンズにある有名な大寺院スファンブナートの境内にもムクロジの原木が何本もあり、土産屋では長い数珠も作っていた。日本には修行僧が種子を持ち込んだとされ、古い寺では時々見ることができるといわれる。日本ではお正月に羽根付きの遊びがあったが、その羽根の玉が実はこのムクロジである。そう言えば三ヶ日周辺の景色はネパールの山村風景とそっくりだ。段々畑のミカンが向こうでは水田となっていて。水牛を使って田を耕す。その水牛の好物がチラウネという常緑樹の葉。チラウネを採りに若者は山へ出かける。仕事の合間にチラウネで恋の歌を吹く。女性から草笛を吹く事が多いらしい。それを聞いた男が草笛で答える。歌の原点は恋心な

のだろう。草笛もウグイスのホーホケキヨも同じなのだろう。ムクロジでつなごうとしたネパールと日本、意外な収穫の一つだった。

(加茂光廣生徒)

■富士川町のメダカは元氣です

富士川町の里山サークル・ふるさとを楽しくする会は、24日(日)「故郷の森を楽しく育てよう!大作戦」を同町の野田山健康緑地公園金山広場で行いました。ボーイスカウトや親子、会員ら約50人が参加し、下草刈りや竹細工製作、ローバの植樹など、里山づくり体験をし、交流しました。

「同大作戦」は静岡県が推進している「県民参加森づくり事業・第二回森づくり県民大作戦」への参加事業として実施したものです。会場となった「金山山広場」の南側斜面は平成七年二月から「ふるさとを楽しくする会」が町から実験地として借り受け「ふるさと森を魅力ある里山にし、子や孫に素晴らしい自然を残そう」と取り組んでいる所です。

この日の金山山は八重桜が満開で、木々の芽吹きが美しく、参加者らはまず、春を満喫。早速、会員の手ほどきを受けながら鎌を使って下刈り体験をしました。子供たちはわらびやぜんまいなどの山菜取りも楽しみました。下草刈りの後は、竹細工製作です。孟宗竹を使い、花入れや器、箸作りに挑戦です。お待ちかねの昼食は、女性会員らが準備した「そば」と「かぼちゃの煮込みうどん」「山菜でんぶら」がメニュー。のびるやいなどり、わらび、ぜんまい、筍、よもぎなどの山菜でんぶらをおかず、手づくりした竹の器に「そば」を入れ、舌鼓を何杯もおかわりしてお腹いっぱい春を味わいました。最後は参加者全員で「ローバイ」の植樹。

「元氣に大きく育て、美しい花を咲かせるように」と願いながら14本の「ローバイ」を一本ずつ丁寧に植え付けました。今回の「故郷の森を楽しく育てよう!大作戦」は5月19日(土)午前11時45分から12時まで、しずおか第一テレビ「さんさん静岡」で放映されます。

■富士川町からの便りその2ー

平成12年3月21日、東名富士川サービスエリア(SA)にオープンした道の駅・富士川楽座が一周年を迎え様々な記念イベントを展開していますが、これに呼応して富士川町では、地域に開かれたSAが本来の意味で地域に開かれ、地域活性化につながるようにと、商工会が中心になり「富士川観光ガイド協会」を立ち上げ、ボランティアガイドの人たちが富士川町を訪れた人たちに町内の史跡案内をしています。3月17日には「まほろばの『岩淵宿』散策イベント」を企画し、ガイドマップ「富士山と歩く」を片手に半日コース、一日コース、大観音コースの3コースをご案内いたしました。

二〇〇一年の今年、富士川町制施行百周年、東海道四百年祭と記念すべき年で、この追い風を受けながら、富士川町のメダカもあつちこつちに顔を出し、地域活性化に一役かおうと懸命です。皆様のお越しをお待ちしています。10月21日には「古谿荘」の一般公開も予定されています。追ってまた、ご案内致しますので、アンテナを高くして情報をキャッチして下さい。

(富士川町のメダカ・柚木恵美子)

■愛知県東栄町では「チェンソーアートクラブ」の立ち上げ

2000年を記念するイベント「TOE I WELCOME 21」が昨年11月開催

されました。アメリカからチェンソーアートの世界チャンピオン、ルース・ブライアント氏を招き、10名ほどがその実技指導を受け、高さ50cm程の鼻を彫ったフェスティバル会場には、ブライアント氏のチェンソーアートが展示され間伐材の造形美は見る者の心を揺り動かし嘆声頻りであった。

作品の一つは、四角に引かれた1m³の重なりあった間伐材に、東栄町の無形文化財である花祭りの面をおどろおどろしく、又美しく、彫られ、実に狂巻であった。今ひとつは、直径50cm高さ3mの丸太棒を、上から羽根を広げた鷲、山百合などを極めて繊細な線や丸みで、実に芸術的に創作したものであった。実演での力強く、スピーディに美しく彫られていく様子は、チェンソーを「山で荒々しく使う機械」としか見ていなかった人々に大きな感動を呼び起こした。

この経験は、落ち込む一方の林業に、自らの手で「新しい可能性と感動を創り出す」と上、下流域の人々をも巻き込んで『チェンソーアートの会』を立ち上げた。若者から年寄りまで、チェンソーアートを目指して、やがては「チェンソーアーティスト日本大会」を東栄町で開催することを夢みている。

(愛知県東栄町のメダカ・森下幸子)

■三味線と琴を聴くメダカ

「桃の花の咲く頃、人寄せをやるから蕎麦を打ちに来ないか」と愛知県東栄町の平本生徒に誘われて、つゆ仕込み担当(家内のこと)とともにこのこと出掛けた。平本さんのお宅は、昨年の秋東栄町で開かれた三遠南信ひとネットワーク「ゆめまる」の全体集会の後にお邪魔して以来

二度目であった。自ら「我楽堂(がらんどう)称しているお宅は、まるで大会社のゲストハウスのような山荘風の三階建ての大きな木造建築である。

一階の中央部には、陶芸用のガス釜が置かれ水道から大きなガスコンロまで備えられた作業室があり、ここで蕎麦打ちをはじめていると、三々五々人が集まり始め、平本さんが以前住んでいた神奈川県や東京方面などからのお客様や地元の方々に加え、顔なじみのメダカが集まり始めた。作業室の隣の調理場でも、地元の方に加えて聞き覚えのあるメダカの声が聞こえ、楽しそうにさまざまな料理の仕込みが続いた。

蕎麦打ちの目途がついて、二階のとでも広いパーティー会場を見学に行くと、太鼓や琴の設定が行われていた。初めて参加する会であり、多くの人の飲んだりしながら新たな交流が生まれると思っていたが、コンサートまであることをここに来てはじめて知りますます期待が高まった。元パン職人であった小父さんに手伝ってもらいながら打った二八蕎麦と茶蕎麦で軽く腹ごしらえしてもらった後にコンサートがあり、その後メインパーティーへと会は進んだ。

今回の演奏は、津軽三味線と太鼓に琴を加えた大変ユニークなユニットで、黒っぽい作務衣を着て演奏するから「サムエ・ブラザース」と称しているのだそう。津軽三味線は、東栄町の廃校になった小学校を拠点に全国はもとより海外にも出掛けている和太鼓の演奏集団で平本さんが後援会長となっている「志多ら」(しだら)のリーダーで、太鼓ももちろんこの団員である。琴は団員ではないが琴の師範の家に生まれ幼い頃から琴を習い、数々の国内外の演奏活動を行っている若者で、最近はこの「サムエ・ブラザース」の活動が中心らしい。力強く大きな

音の津軽三味線と太鼓に対して優雅な琴の組み合わせであるが、それぞれの特徴を巧みに生かした叙情的な曲を主体にオリジナル曲が何曲か演奏され、最後に「一期一会」と題した即興演奏があった。その場で初めて生まれ、二度とは出来ない演奏であるので、彼らは「一期一会」と名づけているそうである。三味線や太鼓に負けまいと琴がダイナミックに掛け合っていく大変スケールの大きな演奏が三階へと吹き抜けになっていくパーティールームに響き渡った。三味線や琴に太鼓という典型的な和楽器で、ジャズともいえる世界中に通じる素晴らしい音楽が生み出されていた。

花祭りや湯立て祭りなどの土着的民族文化に、絵画や書、彫刻などに加えて、このような美しい音楽があり、さらに素晴らしい自然と人々、ユニークな「メダカ」がたくさん住み訪れる三遠南信地域は、宝物の宝庫であると思った。

なお、「志多ら」のホームページ是非覗いてみて下さい。「サムエ・ブラザース」の紹介もあります。きつと、演奏を聞きたくありません。

http://www.shidara.co.jp/index.html
(面倒な人は、検索エンジンで「志多ら」を検索)

(なんでもあり農園) 小作人の松)

■めだかとしらすが泳いだお話

平成13年4月24日朝、「ご存知めだかの上嶋さんから1本の電話があった。「しらすがない!」実は昨年の春、めだかの学校へ参加した際、私が所属する好辛俱樂部の資料と唐辛子みそを持って静岡へ旅立ったのがこのはじまり。

そのころ、私は自分が言い出しっぺで始めた地域づくり団体「夢倶楽部」(始めてからずっと9年間、事務局長を引き受け、生きがいにしていた)を一旦離れる決意

をしていました。私は自営業なのですが、大店舗法の規制がはずれたとたんにもわりに春の竹の子のごとく大きなお店がたち、コンビ二が出来、大手スーパーの広告が入り、酒のデイスカウメントがはじまった。お客様は激減、売上も落下傘部隊。パートをカット、仕事の手間は変わらない。旦那が地域づくりのめり込み、嫁さんは泣き、こどもには白い目で見られ、そんな状況だった。おまけに、師と仰ぐ創造屋の武井紀夫さん引退のしらせがとどく。わたしの人生っていったい何? おまけに、体調までおかしくなつた。

元氣を取り戻そうとめだかの学校へ参加したものの武井さんの姿はない。浜名湖周辺の地図を広げ事務局の榎原さんや上嶋さんから武井さんの家の場所を聞く。その晩は以前から夢倶楽部同士の交流をしていた遠州倶楽部の鈴木さんの家にとめてもらうことになり、そこで、おみやげのとうがらしみそを鈴木さん、上嶋さん、代表の久米さんに手渡し好辛俱樂部(こうしんくらぶ)の資料を見せた。なかでも鈴木さんのおいしいと喜んでくださった。

次の日、真っ先に武井先生の家を訪ねました。天性の方向音痴とカーナビを買うことがいがないため道に迷いたどり着いたのはお昼近くでした。

向いの駐車場に車を止めマンシヨンの方向へ歩き始めると、階段に束ねた本を持った人影が見えた。「あ、武井先生!」2年ぶりの生の再会だった。

マンシヨンの下の階の喫茶店で食事をし、馳走になる事になり奥さんののり子さん(あ、今気がついたけどのりのり夫婦だ!)と3人でテーブルにつく。食事をとりながら先生の引退の話と私の夢倶楽部脱退の話になり、先生に会ってからの十年間が頭の中で駆け巡り先生と

自分がかさなり不覚にも「夫婦の前で泣いてしまった。(今、思えば自分がしてきたことなんてたかがしれておはすかし。)

武井先生は最初にめだかの学校を立ち上げた一人(焼津魚センターをはじめ、森町の体験センター、めだかの学校、とんきら農園、など多くの実績があります)で地域づくりに情熱を持ったコンサルタントだったのですが、このころ、脳梗塞で2度目倒れられ、引退を決意されました。そして、翌日に東京の娘さん夫婦のところへ行くために、荷造りをしていくところに私が邪魔したということでした。私が先生の家にとどり着いた時は地域づくりに関係する本があると思いつからずと本を処分する真つ最中だったのです。

夢倶楽部引退を決めた私なのに思わず「先生、捨てるなら私にその本を下ささい。」と泣きながら言っていました。(なに考えとるんや、こいつ?)本をいただき家に帰りました。

福岡町に帰ると「中途半端にいとメンバーに迷惑がかかるから」と脱退の事を代表の川本さんに電話で連絡。夜話そうと言う事になり代表の家に行くと言力メンバーが勢ぞろいして「休業ということにしておく」ということで解散。

今やめても、なんとか家業をたてなおし復帰しようと言う事、もうひとりの自分、本業のほかの人生の仕事だから(勝手にきめてる)。めだかの学校と、好辛倶楽部はつづけることを心にちかいました。

数日後、遠州夢倶楽部の鈴木さんから電話がかかる。「自分達のとんがらしみそを共同開発しよう、こんど、こちらの高校がインターハイで中津川に行き上嶋が(鈴木さんとめだかの上嶋さんは同級生で仲がいい)PTA会長をしていて付き添いで行くから、そちらの好辛倶楽部で

栽培している唐辛子を上嶋にあずけてください。」という。すぐに私は好辛倶楽部の安保洋勝会長のところへと走った。

こうして、とんがらし味噌の共同企画がはじまりました。そして、その後、しらすの産地の舞阪の商工会を巻き込み、約1年歳月を経て静岡のしらすが岐阜県のとんがらしと長野県の味噌が海を泳ぐことになりました。

上嶋さんの命名で「とんがらしらすみそごはんおかわり」という名前がつき先月、細江町と福岡町で同時発売になりました。わらをつかむ気持ちで販売に。店に来たお客様はもとより出会う人みんなに「味を見てください。」と試食をすすめる毎日。気がつくくと私は好辛倶楽部で「とんがらしみそ屋」、「住所不定の油売り(あちらこちらでひっかかって油を売っている)」という呼び名がついていました。

(好辛倶楽部は、一九七〇年ごろ全日本フオークジャンボリーがおこなわれた坂下町のはなの湖で当時の仲間や都会の子どもたちと荒れた桑畑を開墾して農業を十年つづけている花の湖農業小学校のメンバーの安保洋勝さんと、その有機の土づくりをテレビ博物館の取材できた俳優の川津祐介さんが唐辛子で意気投合してできた倶楽部で会員数140名。安保さんの家が福岡町下野の夷申堂(日本三大夷申のひとつ)にあることから、もじつて好辛倶楽部と名づけられ、食卓の脇役であるとうがらしを主役に人がつなげていこうという団体です。)

口コミ作戦の成功と好辛倶楽部のものすごい情報発信力で「とんがらしみそ」は、春夷申のお祭りの日に行われる好辛倶楽部総会前の販売で火が付き、3時間で350個を売上げました。おもしろい評判が立ち気がつけばテスト販売から一ヶ月半で福岡町で一、六〇〇個売れるまでに成長しました。ここまで売れると

思っていなかったため、工場がパンク。しらすを取り寄せようとしたらしらす漁が端境期で相場が倍になっていて舞阪担当の上嶋さんから今朝の電話が鳴ったというわけだ。

神様ありがとう。静岡のみなさんそちらの分まで売ってごめんなさい。遠州倶楽部の鈴木さん受けたご恩はわすれませぬ(追)夢倶楽部に復帰したら福岡町の農村歌舞伎のときに常盤座へ静岡からめだかの学校のバスツアーを企画しますので、その時はぜひご参加をお願いします。早く復活せねば……

(岐阜県福岡町・元夢倶楽部 早川裕康)

■「自分のことは自分でしなさいッ!」

「補完性の原則」この言葉を始めて知ったのは恥ずかしながらごく最近のことである。1992年のマーストリヒト条約に明文化されたもので、EU加盟国間の権限のあり方を規定するものらしい。調べてみると中央集権とは対極の考え方で、自立と助け合いの原則ということ、個人↓家庭↓隣↓地域↓自治↓体↓都道府県↓国のような流れになるらしい。

個人や家庭や地域などの小さな単位で出来ることは、国や自治体が行うのではなく、その小さな単位に任せ、小さな単位では不可能なことや非効率なことだけを自治体や国などの大きな単位が行うことをいうとある。

平たく言えば自分のことは自分でやれということである。「自分のことは自分でしなさいッ!」母親は口癖のように子供たちに言っていたが、グウタラ亭主の私も含め、自分のことを自分でやらない大人なんとも多いことか、少なくとも私の町に限っては。

自分たちの地域のことくらいは自分た

ちで考えて、自分らで出来ることくらいは自分たちでやろうよ。という考えで始まったのが、細々と活動を続けている私どもの「車座の会」である。

最近はおくんと回転数が落ちてしまっただが、何かやろうとするときに、すぐに町からの補助金を当ててしまいうような組織の多い我が町にあって、瘦せてもかれてもそれだけに手を付けてはならぬ、というのが会の土台を支えている。

コソコソと縁の下を力持ちに徹する人面白い企画を考える人、飲む時だけは元気な人、悔しいけど不思議と女性に人気のある人、ここらでもう一つネジを巻かなければ元気な地域の素にはなれぬと思う。

(「車座の会」中嶋 豊)

■静岡未来づくりネットワークは、「しずおかまちづくりソフトステーション」(13年度新規事業)へ移行

「しずおか未来づくりネットワーク」には鈴木武史メダカの遠州横須賀倶楽部、本島慎一郎メダカの「サンクラブ」中嶋豊メダカの「車座の会」おもしろ人立めだかの学校、等県内の64団体が加盟している。事業の移行とともにこれらの団体も移行する。事業目的は「住みやすい地域づくりを実現するため、地域づくりに関する情報収集・発信や地域づくりに取り組む人材のネットワーク化・活用などの支援策を展開し、協働で地域づくりに取り組む環境を整備する。事業の概要は、①インターネットによる地域づくりの専門家や実践者などの情報提供など。②ネットワークづくり(待合室)は交流会の開催や全国交流研修会への参加年2回。③活動支援(フラットフォーム)は、①地域作りアドバイザーの派遣②まちづくり調査隊一国内支援事例の調査研究、報告会の開催など。」

一 県の地域振興室を駅になぞらえて、活動の拠点を県の総務部地域振興室に置き、行政と民間団体との協働活動を構築していく。

なお、鈴木武史メダカが参加した全国研修交流大会は8月に滋賀県、冬は群馬県を予定している。

人の動き

● 石野省三メダカ、西部教育事務所から母校の引佐町立田沢小学校長へ。自然派の会「発足へ。のんびりとあわてないで」「環境と文化と教育(ひとづくり)」を目指す。基本理念は「人と自然は財産」。キーワードは、「私の財産をつくろう」。

● 松本芳廣メダカ、静岡県農林水産部林道室長へ。夢のそばうち名人への努力はつづく。出張そば打ちしますヨ。

● 溝口久メダカ、国際園芸博担当から中遠行政センターパスポート担当へ。技官から事務職。有能な人材は、ミスマッチ(?)と思われるような人事異動もある。時間が出来た。大いに彼の能力をひき出そう。早く言えば利用しよう。

● 原邦司メダカ、遠州地方から21世紀のリーダーを!と、奮闘中。松下政経塾1期生の林英臣氏を塾頭に、鈴木康友氏など若手議員らと共に政経維新塾を立ち上げて、毎月定例研修会を積んでいる。素晴らしき会のまとめ役。

● 本島慎一郎、耳塚信博メダカ、北遠農林事務所主催の「山里経営塾」に参画し、山里にしかできないベンチャーを模索。塾頭は元メダカの生徒の金澤万由美氏。その発表会が4月25日に開かれた。多くの人が集まった。たくさんのメダカも泳いでいた。

● 平本尚久メダカ、東栄町の山あいに、元工場を利用して、地元物産市、「まほろば」を立ち上げる。地域に貢献している。

● 鈴木正士メダカ、こしもはじまった趣味の農業(お茶摘み)とコンサートと交流会と、オマケにお土産つき。正士茶のうまいこと。但し限定品。お土産つきのコンサートは4月28日に終わりまし

た。

● 階堂隆夫メダカ、関京子メダカのところにへ行ってきた。天竜村は山の中、関夫妻のもてなしに大感激。とにかく榎原さんに電話しなければと。こちらは前の日「明美さん、元気を出して!」とおいしいタケノコをいただいたところ。感謝。

● 尾上美智子メダカ、すみれの道ゆき、ことしも。朝日テレビで放映。町が主催で、「すみれ祭り」を大々的にやったので来訪者が少なかつたとのこと。会のお助け人、すみれレンジャー大活躍。メダカもうじようじよ。一杯飲んで楽しんで。じゃ困るんだよ。すみれの気持ちはどこにあるの。バラ夫婦、尾上メダカのもてなしに感謝。お礼に尾上メダカの気持ちにくんでしょと苦言を。苗の植え替えたくさんあり!植え替えレンジャー募集

中!(TEL0539-86-0311)

● 鈴木旭メダカ、遠州雑学倶楽部をつづけること数年。月一回開講。牧野怜子メダカ、加茂光廣メダカ、バラメダカ、耳塚メダカも講師に、次回は松田不秋メダカもやるヨ、高橋俊光メダカも協力。月一回夜四時間ぐらい。お手伝いしてくれる女性いませんか。乞連絡。

(033-462-1029)

伊藤メダカ、芋博士の種芋の植付けが終わると秋にはムラサキ芋とシモン芋収穫ムラサキ芋は松本泰榮メダカの饅頭に、尾上美智子メダカのスマイル飯へ、シモン芋はバラメダカの飲物に、葉とくきは渡辺三ツ子メダカの芋づる葉茶に。お裾

分けのバラ夫婦、コレステロールと血糖値と尿酸値もグリーンと下がってあと少し。健康指向の生徒には最適。もちろん生産主農家。出荷も完璧を期す。エビ芋も深ネギも芋博士の称号に違わず。

● 時はお茶の季節、お茶に関わるメダカも多し。鈴木計芳、市川祐一茶農家兼販売の両メダカ、猫の手も借りたい。伊藤八右の茶園に佐野文字メダカの茶摘み応援。手より口の方がよく動くとか。なにを隠そう、県の茶振興室長は、32回教頭

の川島安一メダカ。俺んちだってお茶やってます。ハイ、わかってます。

まだまだあるが、今回はこれにて!。次回ご希望の方は事務局榎原メダカまで待つてます。

メダカ春秋

年中夢求

ちまたでは、小泉総理の改革宣言で連日マスコミをにぎやかしています。自分も議員になって早2年の月日が経ちました。えー。町会議員の報酬ってこんなに少ないの?いろいろ引かれて、明細では517000円が振込まれていました。これでは子育て中の人では議員だけでは生活出来ない。県内の町村議会の平均年齢は60歳を少し越えています。年金暮らしの議員が多いのも事実です。県内の議員が全員集合する、はじめての県町村議会の研修では、「うー。この臭い、老人臭?。大きな会場が老人ホームの臭い?」県内の町村議会では昔から高齢化?今、先輩議員にはブレッシヤトをかけています。IT時代に乗り遅れないよう

議員が町のホームページを開いたことがないので町民の代表として恥ずかしいと、全議員にパソコンを使いだしてもらっています。また、議会広報の編集委員を任せられたため、原稿はフロッピーで提出としました。今では72歳の先輩議員も、パソコンを買い原稿を書いてもらっています。これにより、下手な字の原稿の文字起こしが無くなりコストダウンが出来、その分2色刷りにすることができました。(驚いたのは、先輩議員が協力的で今年度のIT講習会でも積極的に参加しています)

今の議員は名譽職でも何でもない、町民の代表として「いま何が出来るのか」「いま何からしなければ」を常に頭に入れて2年間行動してきました。とにかく覚える(知らなかった事が多い、もともと技術屋だった私は、簿記的な決算・予算の数字には弱い、分厚い決算・予算書の中身は全部とても覚えきれなく、取り敢えず何処に何が書いてあるか判るようにして2年が過ぎました。もともと、同じこの繰り返しは自分の性分に合わない、ここからの2年間の任期も、同じ事の繰り返しにならないよう改革し、行政を見つめていきます。

めだかの学校はイイナ。ほつとするし、やる気ができるし、いつも元気をもらっている。

長い間、通学しているが、ここでは老人の臭いはしない、みんな若いです。毎回「新しい発見がある」二出会いがあり、感動がある。人生のリセット出来ないが、めだかに逢って心のリセットができるのは、私だけでないはずだ。

(細江町 上嶋裕志)

☆細江町から袋井市へ移り住んだ湯浅明美メダカ。「あつメダカが泳いでいる!」近くの小川にメダカがいた。もう嬉しくて楽しくて...事務局のバラさんへ手紙した。...このころ又、小川へ行ってみた。「あつ大変!とどこどころに水たまりがあるだけ。よくみると、水たまりにメダカが寄り添っている。あわてて家にもどってタモをもつてメダカの救出作戦。作戦成功して、いまは水鉢で元気に泳いでいる。学舎の「つみくさ」へ行ったらメダカがいない。「どこへ行ったの?」「カエルに食べられた」だって。「めだかの学校」にメダカがいないなんて...「今度持っていくます」。

(湯浅メダカと電話での話)事務局のリンデンパウムでは、クロメダカとヒメダカを育てている。宇宙メダカの子孫も2匹育てているが、子孫を残せるか微妙。オスメスどちらでしょう?。それとも...マイッタネ。(バラメダカ)

☆田邊哲メダカと藤田潤吉メダカ。4月6・7日と石川県で開催されたチンドン全国大会出場。16チームが技を競った。「チンドンチンドンチンドン」。「田邊さん、マタニテイチンドンやったの?」あとにつづいて藤田潤吉メダカ(前回準優勝)。今回は優勝だ!。チンドンチンドンがんばったけど...。田邊メダカ1番。「エッ、優勝じゃないの?」。出場順番が一番。「...」。藤田メダカは...。マア、イッカ、盛り上がり上がった楽しくやったから。参加するのことに意義あり。

☆秋田県の奈良努メダカから、事務局で言い出しつへ榊原幸雄メダカのところへ手紙がきた。封を開くと、ビックリ。鹿角市の公民館運営委員会で、5月20日にバラさんの講演が決まったんで。話しの内容は「メダカの学校と地域福祉について」。午

後四時から一時間半。そのあと交流会もあるのでもれも出て。新緑の秋田はいよいよ。案内するから、奥さんも一緒にだつて、5月20日は日曜日。「お店は休みにして行くか」せつちかなメダカといひ加減なメダカ。人生まえむき前向き。2月20日に浜松市生涯学習センターの横田良明メダカから頼まれて、いい話(?)をししたばかり。「人選間違えた」。横田メダカ頭を抱えておりましたけど...

☆4月18日、浜松市田町の中国料理の店「華勝楼」で、32回の授業内容を定める職員会議を開く。これでよし、解散。小雨降る中、鈴木正士メダカ焦っている。鈴木メダカの車の後ろにピタッと車が止められて出るにあられず。なんで、よく見ると月極め駐車場所、契約者が頭にくてやったこと(??)。後ろのワイパーのところにメモ書き、携帯電話の番号。「おまえ、いつから止めてあるんだ」「2時間待ってる!」ブツン。夜は10時。車の主はどこかでお酒を飲んでる様子。待つこと30分。車の主の奥さんが鹿谷からタクシーを使って車を動かしかけてくれた。車の主と奥さん、あなたならどうしますか?もちろん鈴木メダカは感謝感激でした。

(注)職員会議や給食の打ち合わせをする華勝楼の割引駐車場は、建物の東側です。ご注意ください。

☆三遠南信地域情報誌「Ami」3号(初夏)が5月10日に発行されます。今回の特集は「おと」です。めだかの生徒がたくさん登場していますよ。見本誌は、リンデンパウムほか各所に設置しています。投稿・取材希望など、お問い合わせは照井メダカまで。TEL053-484-4133

◆事務局より

21世紀になって早や四ヶ月余り、新たな思いもどことなく20世紀と何ら変わっていないような気がしてきません。情性といった方が早いのかも知れませんが、みなさんはどうですか。改めて「学校」で語りあいましょ。さて、2月のはじめのこと。31回目めだかの学校だよりの発送をして、ヤレヤレとしながら、入院している妻明美さんを見舞い帰ってくる、FAXが入っている。「3月1日仕事の都合で出席できなくなりました。校長訓話の原稿1枚分抜けています。コピーライターとして恥ずかしい。加藤修一校長としては珍しく短いな?と思っていたがマイッタね。すぐに製作の照井泰子生徒に確認してもらったところ、「抜けていました」。発送してしまつたのはあとで差しかえてもらうことにして再印刷してもらつた。21世紀初頭の校長として、小泉新首相よろしく意気に燃えていた加藤修一校長。さぞかし残念無念。もう次の機会は...。それより代理校長は誰にしよう。正士さん頼む!!(注・鈴木正士生徒)「バラさんに言われると断れないもんね」と快く引受けてもらつた。写真入の校長訓話、載せられなくてゴメン。というわけで31回校長をくろうしていただきました。

32回の校長は坂本玲子、教頭は川島安一、用務員は藤田潤吉。いつものごとく独断と偏見での指名。「なんで私が校長なの。久しぶりに出てきたと言つのに...嫌や」。教頭がしっかり補佐しますから。やってください。「そんなふたりをしりめに用務員の藤田生徒、のりやの出たがり屋だからたまらない。「このオナナの隣りに座つてもう...。ひんしゆくを買つてしまつたが、本人はうれしくうれしくて。自分の宣伝までする始末。これもメダカの学校の大らかさと思いきや、4月14日の職員会議でしっかりとお灸をすえられた。そんな中「30回と31回で商品を買つた生徒がいる。買った生徒も買った生徒だが、開校日での商品の売買は認めない」。退学処分の対象では...。「ちよつと待つて、自分たちのやっている運動はすばらしい。一生懸命すぎて回

りが見えていないじゃないの?。注意してからでも遅くはないよ」

「めだかの学校」の建学の精神にあるように「もう一人の私発見」「もう一人のあなた発掘」とあるようにお互いに磨きあうところ。その基本は、お互いに尊敬し認めあうこと。自分のことのみをしゃべりすぎて相手のことを気にいたさないことは相手の存在を認めていないことと同じです。また基本常識である「守るべきことは守る。やるべきことはやる」めだかの学校の大らかさと自由な心はそんなところにあるのです。

32回の授業はあらためて「教育」のことを考えよう、2時間、3時間を使得て医大加齢医学研究所の中野昌俊先生の子どもの脳生理学「君が必要なんだ」と決める。もう1時間は「21世紀は癒やしの世紀:内面の充実が外面をも美しくする:アロマセラピストの湯浅明美先生の「かおり」とおいのちがいに」。お楽しみに...。(事務局言い出しつへ榊原幸雄)

◆第9期(平成13年9月1日~14年8月31日)の継続申し込みの受付をはじめます。9期の申込書を同封しますので、ご記入のうえ、千円を添えて手続きをしてください。6月1日の32回開校日より受け付けます。出席できない生徒は8月15日までに事務局(T4312531引佐郡引佐町東久留女木4721111リンデンパウム内)おもしろ人立めだかの学校事務局 榊原幸雄あてお送り下さい。なお、手続きを忘れずと名簿からはずれ自動退学となりますのでご注意ください。

◆第33回「めだかの学校だよりの発行は8月1日です。生徒の関係している活動や、地域の情報など積極的に送り下さい。原稿の締切りは、7月20日です。事務局又はエヌビーネット照井あて FAX053-433-10471 Eメール teru@bnet.co.jp